



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト クリーン農業ニュースレター

第3号 2020年2月発行

このプロジェクトは、5年間（2017-2022）のJICAによる技術協力プロジェクトで、ビエンチャン市、ルアンパバン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及びGAP）の推進を目的として活動しています。

新チーフアドバイザーの赴任挨拶

チーフアドバイザー 佐久間 弘行

2019年11月に赴任しました佐久間弘行（チーフアドバイザー／ビジネス振興）と申します。これまでマレーシア、インドネシア、イラク及びベトナムにおいて、主に農業（園芸）／農村開発に携わってきました。また、日本国内では1990年代前半に筑波国際農業研修センター（JICA筑波）にて、海外からの研修員に対し野菜生産に関する技術指導に従事しました。

今回、ラオスは初めての任地であり、クリーン農業開発プロジェクトの一員として、ラオス・日本双方の関係者と協力し、クリーン農業の推進に携われることを嬉しく思っています。赴任直後の11月には、プロジェクト対象地域の4県（ビエンチャン市、ルアンパバン県、サイヤブリ県及びシェンクワン県）の関係者を表敬し、クリーン農業（主に有機野菜）の現場を訪問しました。当然のことながら、各県とも社会経済状況も異なり、それぞれの地域特性を有し、自ずとクリーン農業推進のための取組みにも十分な配慮が必要であることを強く感じました。更に、クリーン農業、とりわけプロジェクトが注力している有機農業に関しては、未だその生産体系が確立されているとは言い難く、市場の開拓や販路の拡大も喫緊の課題と云えます。このため、プロジェクト関係

者と共に考え、地に足のついた取組みを進めて行きたいと考えています。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

最近のトピックス

1. 本邦研修について

1月14日から22日までの9日間、「クリーン農業の認証制度に関する幹部セミナー」というテーマで本邦研修を実施しました。参加者は、ラオス農林省農業局チャンタ局長をはじめとするラオス政府関係者合計7名で、農林水産省、（独）農林水産消費安全技術センター、日本GAP協会を訪問した他、有機農業を実践する農業者やGAPの農産物を取扱うスーパー等を訪問し、訪問先の関係者との間で活発な意見交換が行われました。

本プロジェクトの目的は、市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及びGAP）の推進ですが、消費者との信頼関係を確保する観点から、認証制度やその監視体制の整備や適切な運用を確保することが、前提条件として不可欠です。また、本プロジェクトで推進しているクリーン農産物のマーケティング活動の参考とするため、茨城県庁や茨城県が銀座に開設しているアン



農民リーダーによるラディッシュの試作栽培（ビエンチャン市タサン村）



農林水産省でのセミナー

ナショップを訪問し、同県の農産物の需要拡大に対する取組みについてのお話を伺う機会も得られました。

セミナーの最終日は、JICA筑波において、今回の訪日のとりまとめ、及び日本の有機農業やGAPに関する制度や現状を参照しつつ、今後のラオス政府の認証制度やクリーン農産物の振興方策に対する改善案を整理し、テレビ会議システムを用いてJICA本部関係者に対して報告を行いました。



神奈川県有機農業生産者
(株式会社いかす内田達也氏)訪問

2. シェンクワン県での土壌研修の実施

1月13日（月）～17日（金）にシェンクワン県ペーク郡の5村で各1日ずつの土壌研修を実施しました。5日間で合計15村177名の農家が参加しました。参加者は地域で入手可能な資材とEMを活用して、有機農業の基礎となる堆肥、液肥、および自然農薬の作り方を学びました。

午前中に県・郡職員並びにクリーン農業基準センターの職員からそれぞれの作り方について口頭での説明がありました。午後からは実際に稲わら、おがくず、牛糞、馬糞、コウモリの糞等の資材を活用した堆肥づくり、野菜くずを活用した液肥づくり、イボツツラフジ等の野草を活用した自然農薬づくりの実習にのぞみました。

一部の農家はすでに堆肥や液肥づくりを実践しており、研修中も積極的に他の参加者に対して補足説明をしていました。今回学んだことを基礎として各農家で試行錯誤しながら、自分なりの土づくりに取り組んでいってもらうことを期待します。



堆肥づくり実習の様子

3. ビエンチャンの有機農家グループが「Lao Food Festival 2020」に出店

1月28（火）～31日（金）にビエンチャン市のチャオ・アヌヴォン公園で開催された「Lao Food Festival 2020」にビエンチャン市の有機農家グループが出店し、有機野菜の直売を行いました。同グループは昨年同フェスティバルに出店しています。

会場ではラオス全国各地の食品・料理が販売され、多くの人でにぎわっていました。中でも、アメリカ人旅行客をはじめ、多くの人々がビエンチャン市の有機農家グループが販売する有機野菜に関心を示してくれました。このフェスティバルがきっかけとなって、多くの人々にビエンチャン市の有機農産物市場を訪問してもらえれば幸いです。



Lao Food Festival 2020での
有機野菜直売の様子